

第 14 回 苫小牧市公共交通協議会報告＜要旨＞

日 時：平成 30(2018)年 6 月 25 日（月） 14:00～

場 所：市役所南庁舎 9 階 議会大会議室

出席者：下夕村委員（会長）、岸委員（副会長）、辻榮委員（室蘭運輸支局）、水井委員（胆振総合振興局）、佐藤委員（北海道旅客鉄道㈱）、佐藤委員（社会福祉協議会）、八島委員（町内会連合会）、長谷川委員（室蘭地区バス協会：代理出席）、森本委員（苫小牧商工会議所）、工藤委員（交運労協）、福原委員（苫小牧市）

代理出席者：高本氏（室蘭地区バス協会）

＜報告事項＞

報告第 1 号：公共交通協議会・交通政策分科会委員の変更について

- ・公共交通協議会委員の変更について報告。

【公共交通協議会】

北海道胆振総合振興局地域創生部地域政策課 課長

笹森委員から水井委員へ

苫小牧市老人クラブ連合会 副会長

白鳥委員から岡橋委員へ

苫小牧市町内会連合会 副会長

加賀谷委員から八島委員へ

【交通政策分科会】

苫小牧市老人クラブ連合会 副会長

白鳥委員から岡橋委員へ

苫小牧市町内会連合会 副会長

加賀谷委員から八島委員へ

報告第 2 号：公共交通関連事業について

- ・市内路線バス、コミュニティバスの利用状況並びにユニバーサルデザインタクシー導入支援事業について報告。

【市内路線バス】

- ・平成 29(2017)年度の利用者数は前年比 61,883 人減の 3,242,801 人。
- ・運行経費については減便等により、6 億 7,362 万 5 千円に減少。
- ・全体収支については前年比で約 2 千万円改善。
- ・系統別の補助金については、補助交付対象 38 系統のうち、30 系統に対し、北海道との協調補助、市の単独補助を合わせ、4,900 万 7 千円を補助。

【樽前予約運行型バス】

- ・平成 29(2017)年度の利用者数は前年比 1,140 人減の 18,381 人。
- ・市からの委託料は、運行経費から国庫補助金、運賃収入を差し引いた、7,956,890 円。
- ・樽前予約運行型バス利用促進事業として、樽前小学校に通学する児童に対し、市内バス路線の定期券購入代金の 2 分の 1 を補助。平成 29(2017)年度については、延べ 30 人に対し、169,090 円を補助。

【植苗・美沢地区コミュニティバス】

- ・平成 29(2017)年度ダイヤ改正及び増便の効果により、利用者数は前年比 297 人増の 3,310 人。
- ・市からの委託料は、運行経費から運賃収入を差し引いた 6,012,650 円。

【ユニバーサルタクシー導入支援事業】

- ・市内 3 事業者が導入した 4 台に対し、1 台につき 10 万円、合計 40 万円を補助。

報告第 3 号：平成 29(2017)年度事業報告について

- ・平成 29(2017)年度協議会開催状況
- ・近隣 JR 駅へのイベント案内ポスターの掲出、道南バスと高校生等との連携事業、バス待合所施設修繕事業といった公共交通利用促進事業
- ・植苗・美沢地区コミュニティバスの利便性改善

報告第 4 号：平成 29(2017)年度決算報告について

- ・平成 29(2017)年度における会計収支決算報告。

報告第 5 号：平成 29(2017)年度監査報告について

- ・平成 29(2017)年度会計収支決算書、及び収支状況等について監査した結果、いずれも正確であった旨の報告。

< 議案事項 >

議案第 1 号：平成 30(2018)年度事業計画(案)について

【公共交通利用促進事業】

- ・バスマップ作製事業
- ・公共交通利用啓発ポスターの掲出
- ・バス待合所修繕事業
- ・事業者と高校生等との連携事業、たるまえサンフェスティバルへの出店。

【公共交通利便性向上事業】

- ・バスアプリ調査・検討

【次期交通計画】

- ・地域公共交通網形成計画策定に向けた調査・検討

【公共交通協議会の改組について】

- ・地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第 6 条に規定する法定協議会への移行を予定。
- ・道路管理者、関係する交通事業者を新たに委員に追加し、協議会規程の改正についても、今年度中に手続き完了を予定。

【苫小牧市公共交通協議会・交通政策分科会の開催予定について】

→原案どおり承認。

議案第 2 号：平成 30(2018)年度予算(案)について

- ・バスマップ作製、公共交通利用啓発ポスター作製、バス待合所修繕事業等、今年度予算について説明。

→原案どおり承認。

議案第3号：平成31年度地域内フィーダー系統確保維持計画申請について

- ・「地域内フィーダー系統確保維持計画」（樽前予約運行型バス）の申請について提案。

→原案どおり承認。

その他

【高本代理】

- ・燃料費の高騰や貸切バス部門の競争激化など、収益が悪化するものと予想している。
- ・当社においても、運転手不足は同様の状況。
- ・収益悪化、乗務員不足という二つ問題を抱えていることから、路線の見直しについても利便性、効率性の観点から検討を考えており、今後、苫小牧市や地域の方々と話し合いをしていきたい。

【岸副会長】

- ・JR北海道の維持困難線区は、北海道交通政策総合指針の中で、残すことを前提として検討すべきとは示されているが、残すことが決まったわけではなく、地域と道とJR北海道がどれだけ一生懸命真剣に取り組むかで、残すかどうかが決まるという状況。苫小牧市でも、積極的に取り組んでいただきたい。
- ・「北海道バス活性化戦略会議」において、乗務員等の人材確保、バスの利用促進について、バス事業者を巻き込みながら、取り組むことになる。
- ・全体的に予算が限られる中、やる気がある会社を応援する方向になっている。
- ・バス事業者が主体的に取り組んでいかないと、苫小牧だけ取り残されるという事態になりかねない。そこは危機感を持っていただきたい。

以上